

平成 13 年度 住宅・建築主要データ調査結果(概要) 共同住宅編

調査の概要

調査の目的

本調査は、公庫融資住宅のうち共同住宅について、物件の仕様、防音性能やバリアフリーといった公庫が定めた技術基準についての実施状況、また、防犯面や維持管理に対する取組状況等を把握することを目的に実施した。

調査対象種別

優良分譲住宅融資及びマンション購入融資

調査対象

[優良分譲住宅融資]

平成 13 年 12 月に譲渡計画承認事務を行った物件

[マンション購入融資]

平成 13 年 12 月にマンション維持管理基準適合確認事務を行った物件

調査方法

公庫支店担当課窓口において対象物件を取扱う事業者に調査票を配布し、郵送により回収。

調査対象件数（調査票配布件数）

優良分譲住宅融資：626件　マンション購入融資：102件

回収件数（回収率）

優良分譲住宅融資：401件(64.1%)　マンション購入融資：13件(12.7%)

調査期間

平成 13 年 12 月

調査対象地域

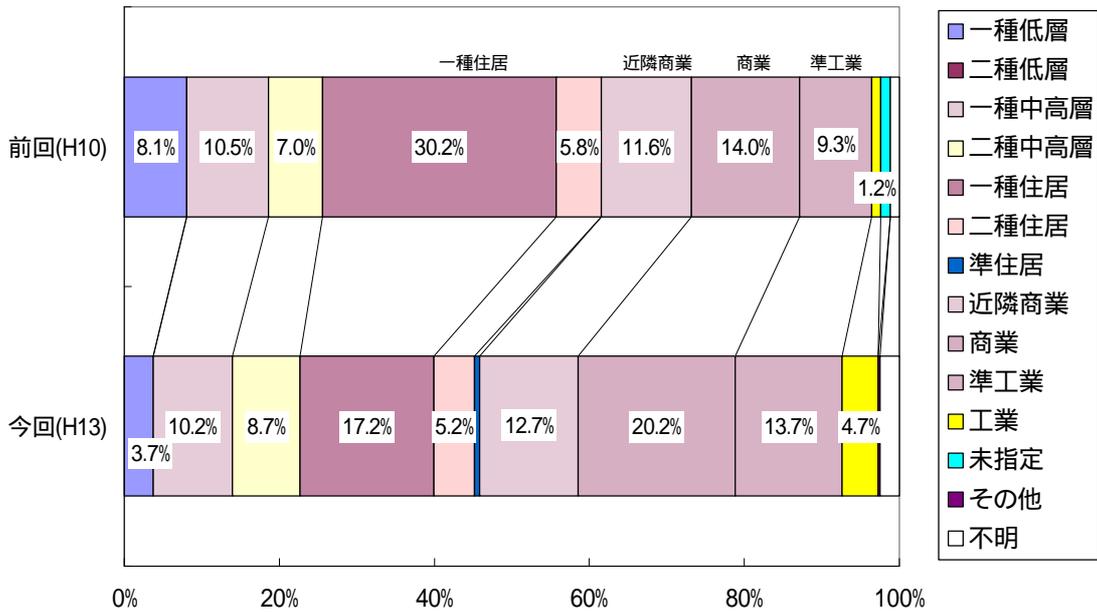
全国（沖縄県を除く 46 都道府県）

調査結果の概要 < 優良分譲住宅 >

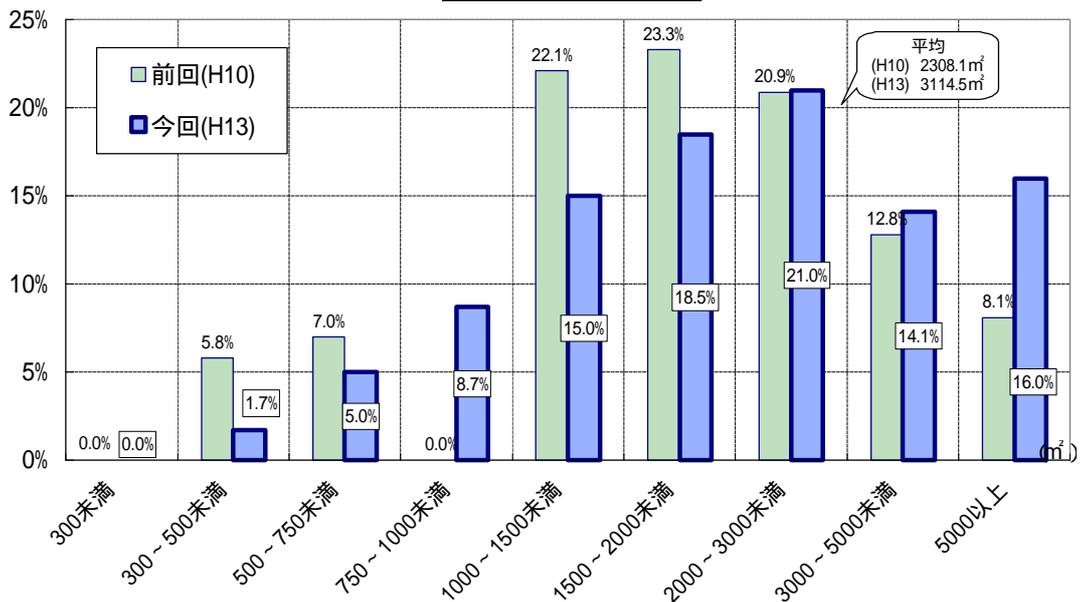
1 団地計画について

建設地を用途地域別に見ると、商業系地域（商業、近隣商業）の割合が増加して32.9%となった。前回調査(平成10年度)より7.3ポイント増加。
敷地面積の平均は3,114.5㎡（前回調査より800㎡以上拡大）

用途地域の構成比



敷地面積の構成比

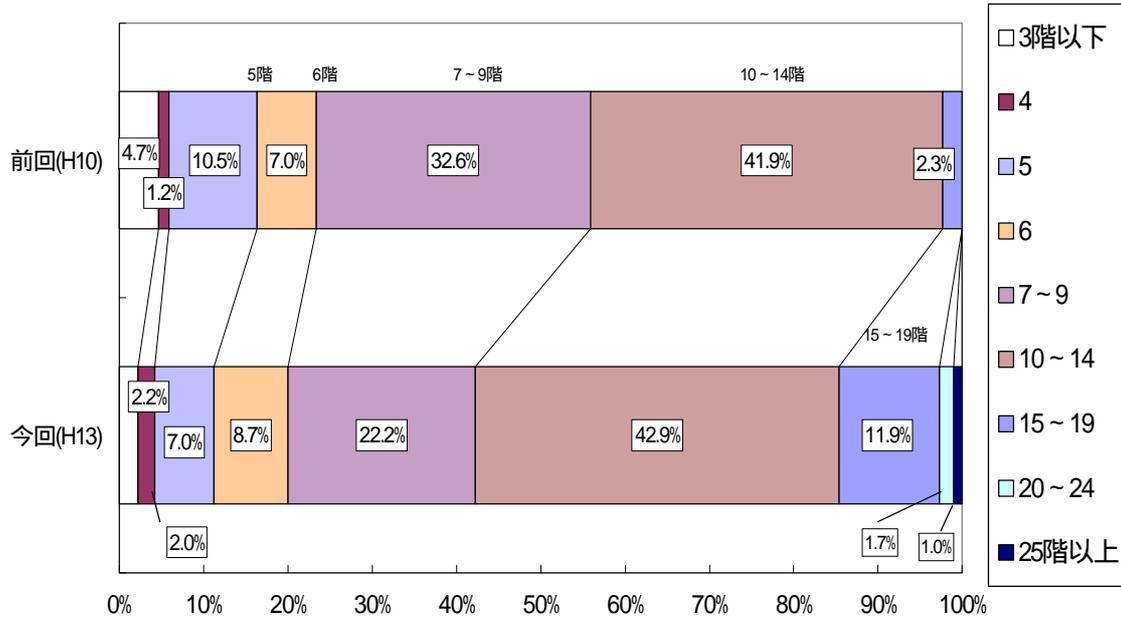


2 地上階数及び工法

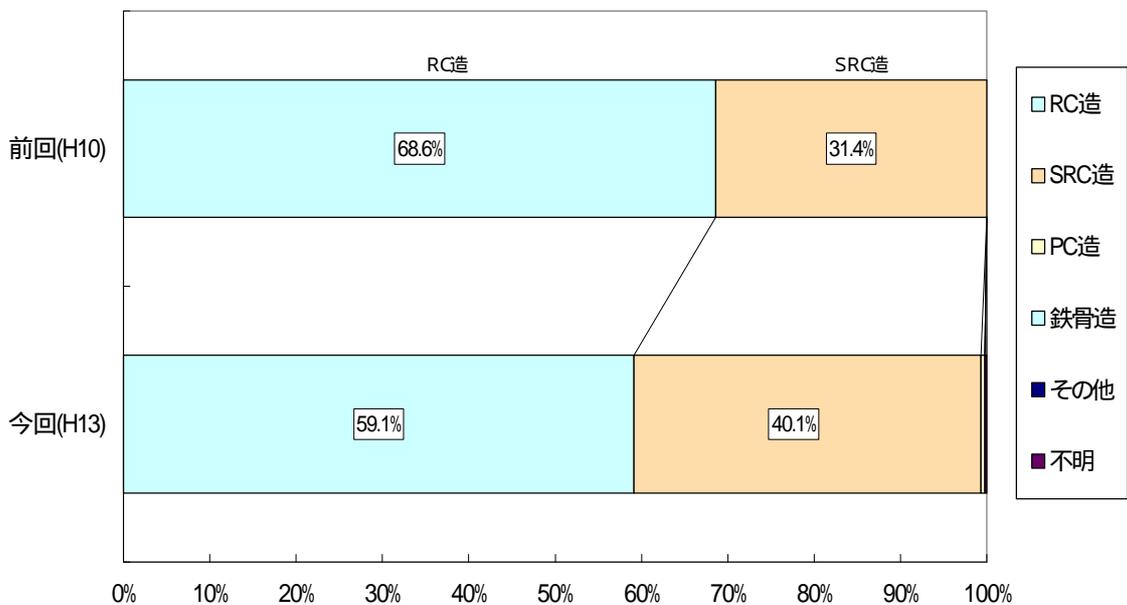
地上階数を見ると、15階以上の割合が増加している（14.6%）。平成10年度調査では、2.3%。

工法は、SRC造の割合が増加（40.1%）。平成10年度調査では、31.4%。

地上階数の構成比



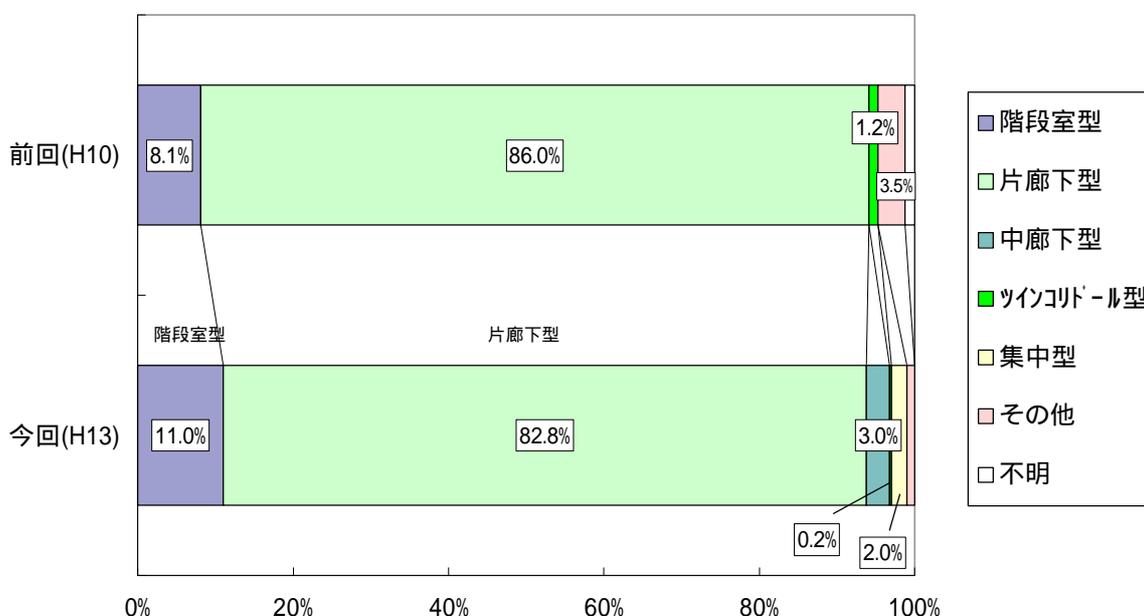
工法の構成比



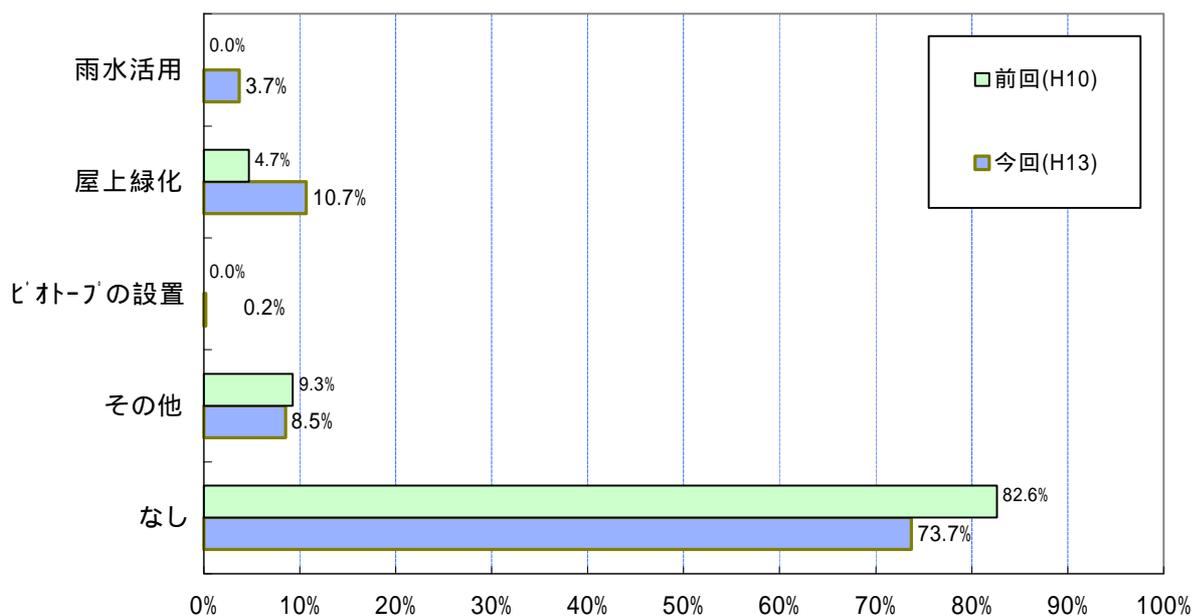
3 住棟形式及び環境共生について

住棟形式については、依然として片廊下型が主流となっている（82.8%）
 環境共生への対応については、さほど目立った変化はなくあまり進展しているとは言えない。

住棟形式の構成比



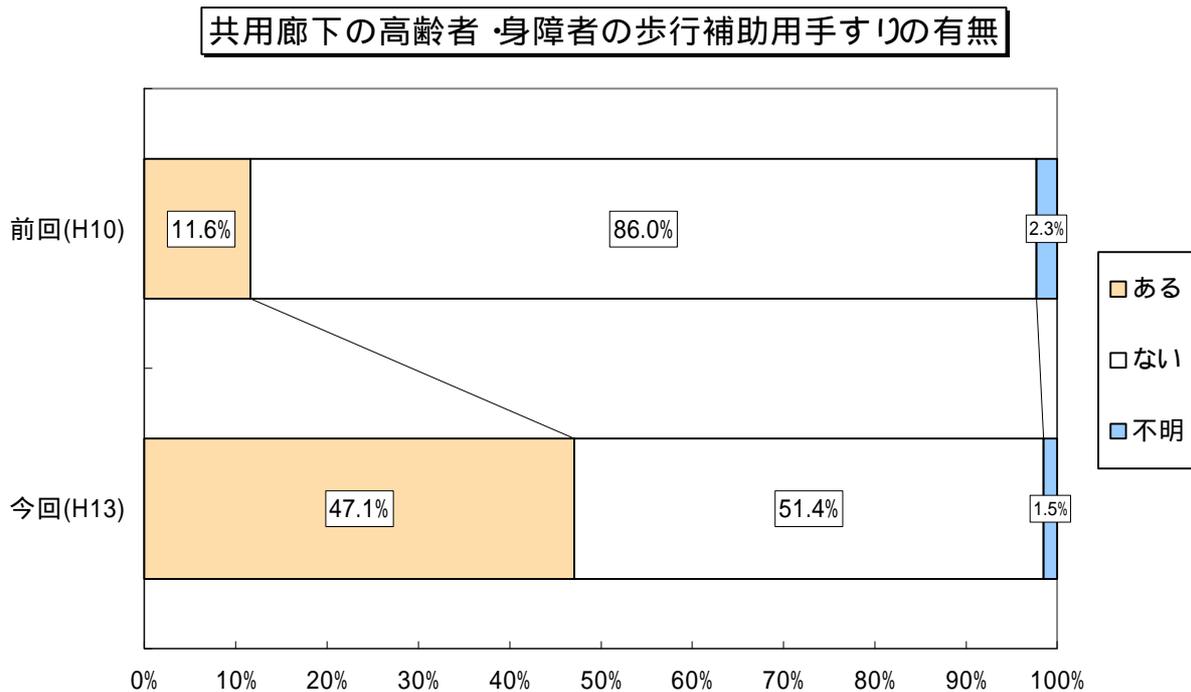
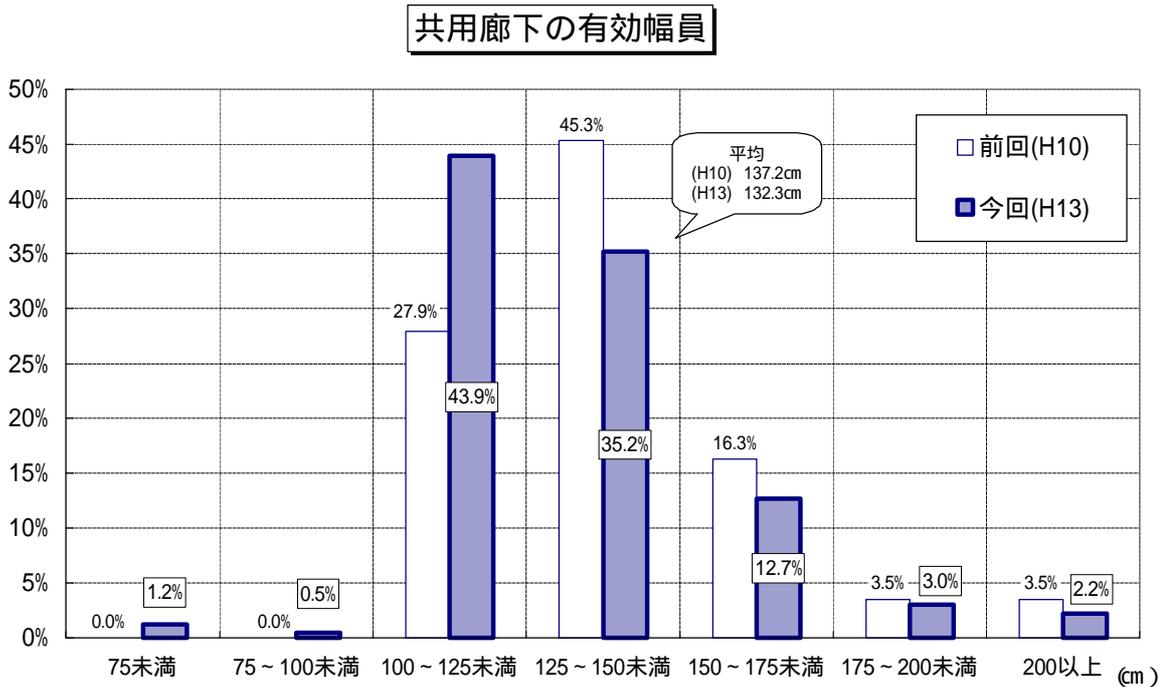
環境共生を図った措置の種類 (複数回答)



4 共用廊下について

共用廊下の有効幅員は、「100 cm以上 125 cm未満」の区分が増加（平均は132.3 cm）

共用廊下に高齢者や身障者の歩行補助用の手すりを設置している割合は47.1%で、平成10年度調査の11.6%を大幅に上回った。

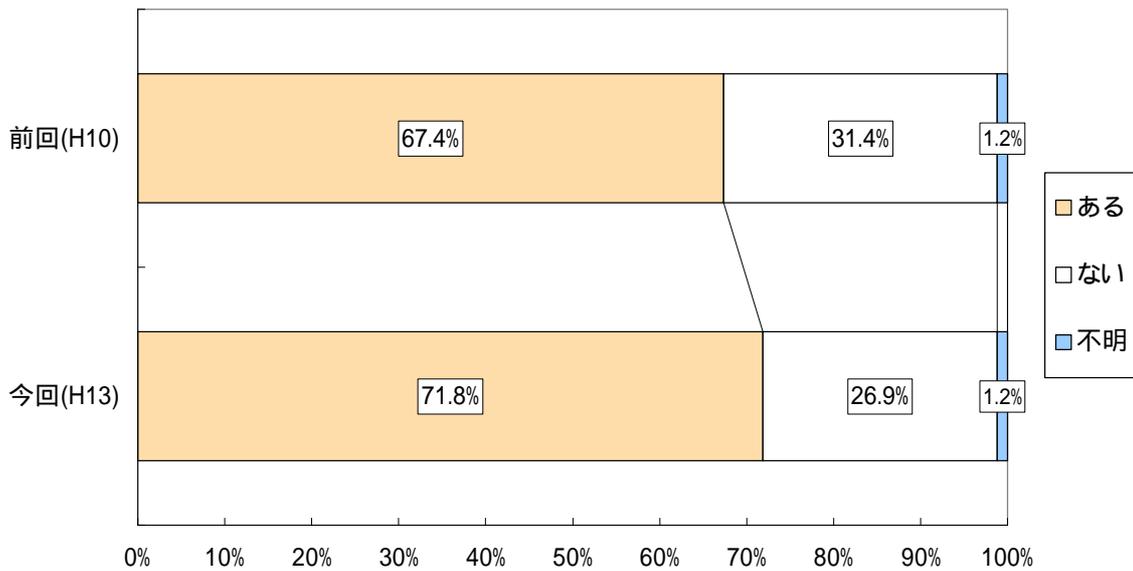


5 高齢者・身障者対応施設等

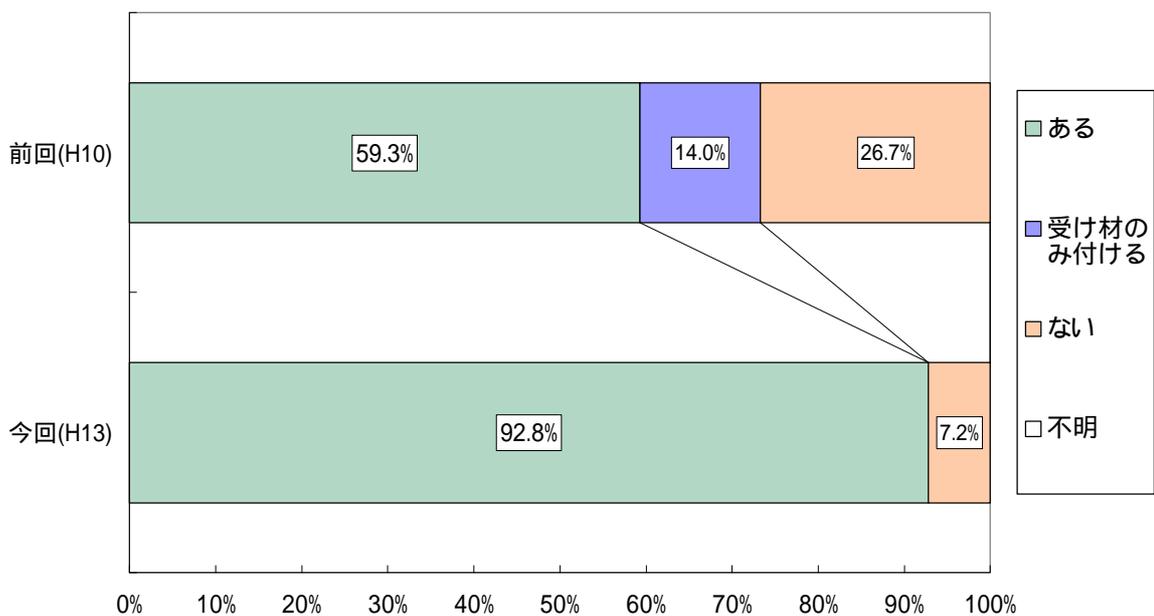
玄関にスロープを設置している割合は71.8%で、平成10年度調査(67.4%)とほぼ同程度。

浴室に手すりを設置している割合は、前回より大幅に増加し92.8%となった。平成10年度調査では59.3%。

玄関(エントランス)部分のスロープの有無



浴室の手すりの有無

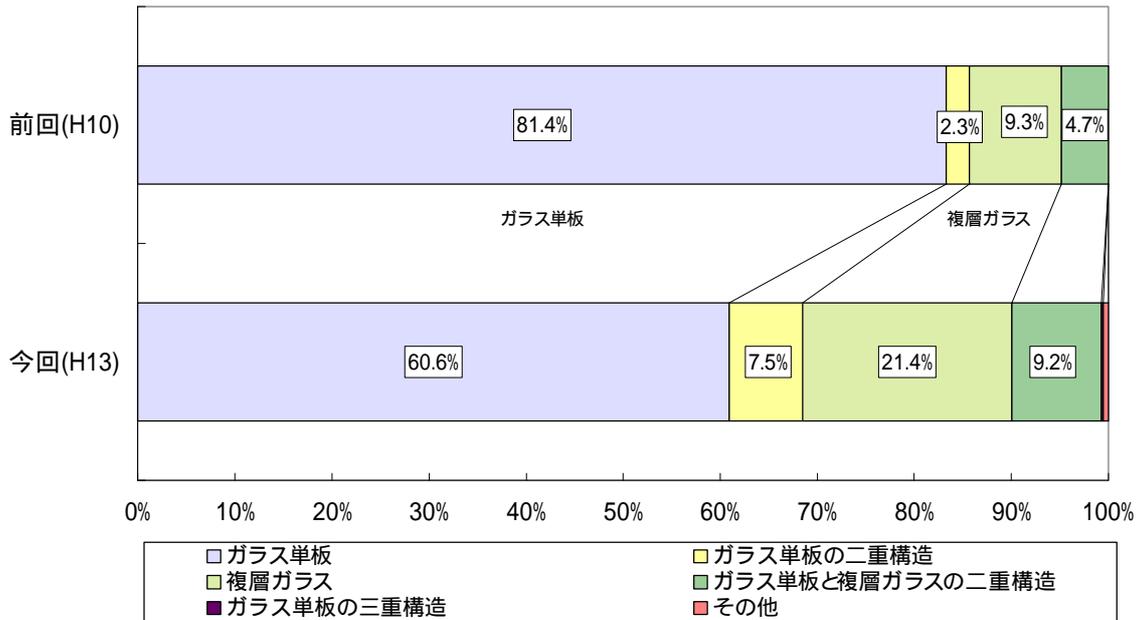


6 省エネルギー関連

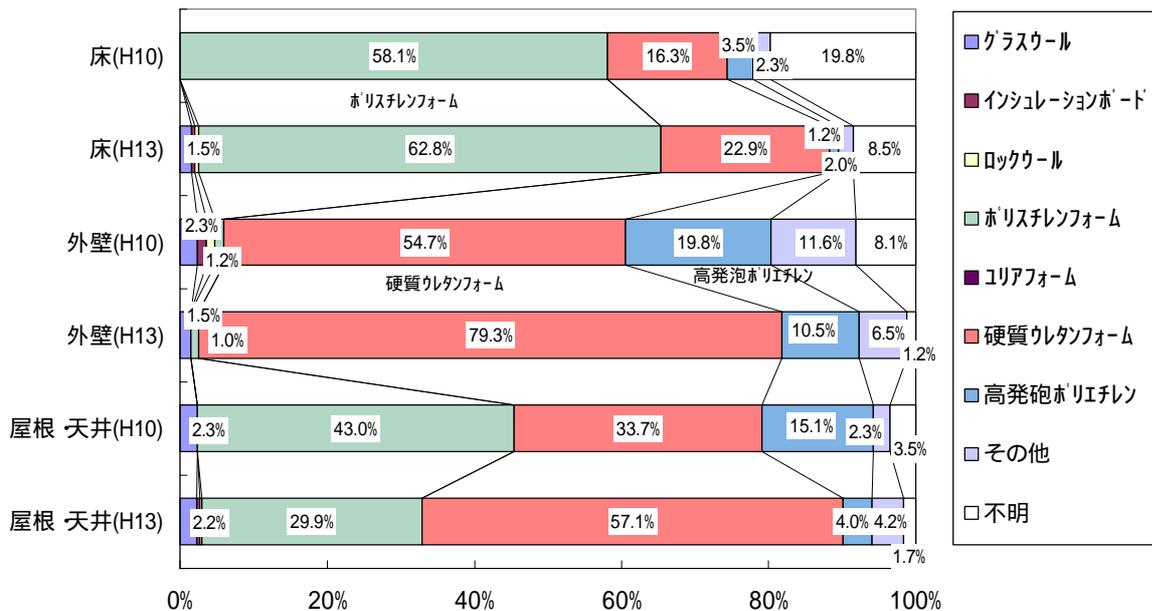
窓サッシのガラスの種類は、ガラス単板が主流であるものの（60.6%）、
複層ガラスの割合が増加している（9.3% → 21.4%）。

断熱材の種類は、「硬質ウレタンフォーム」の使用が各部位で増加。

窓サッシのガラスの種類構成比



断熱材の種類構成比

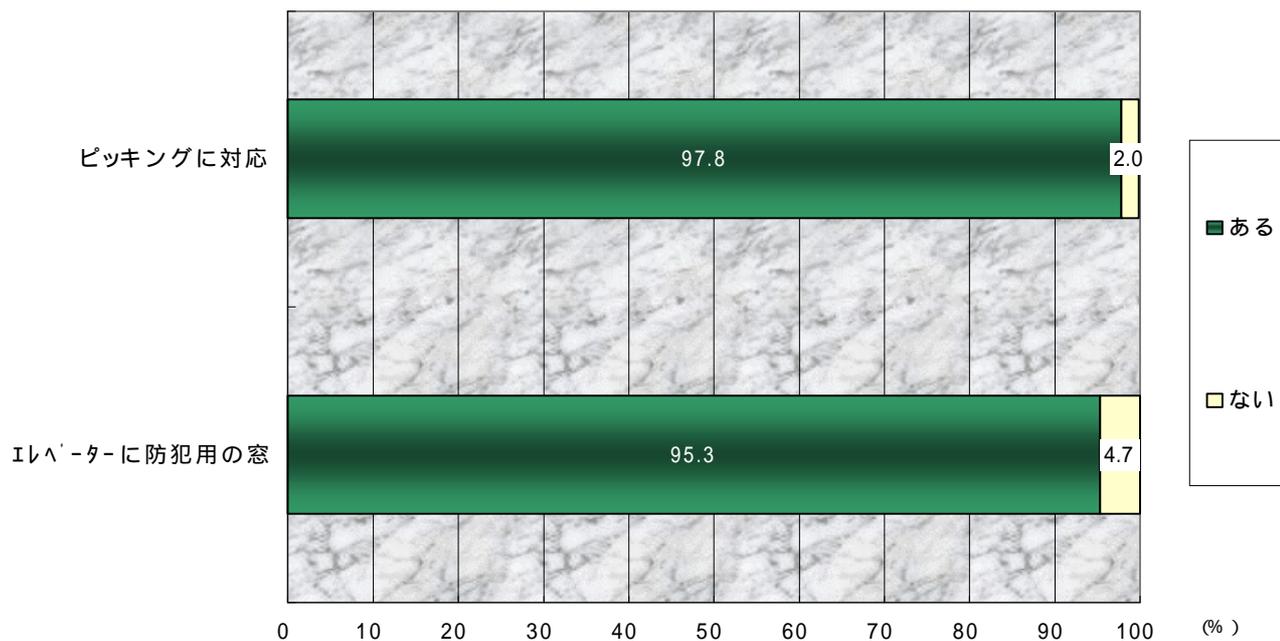


7 防犯関連

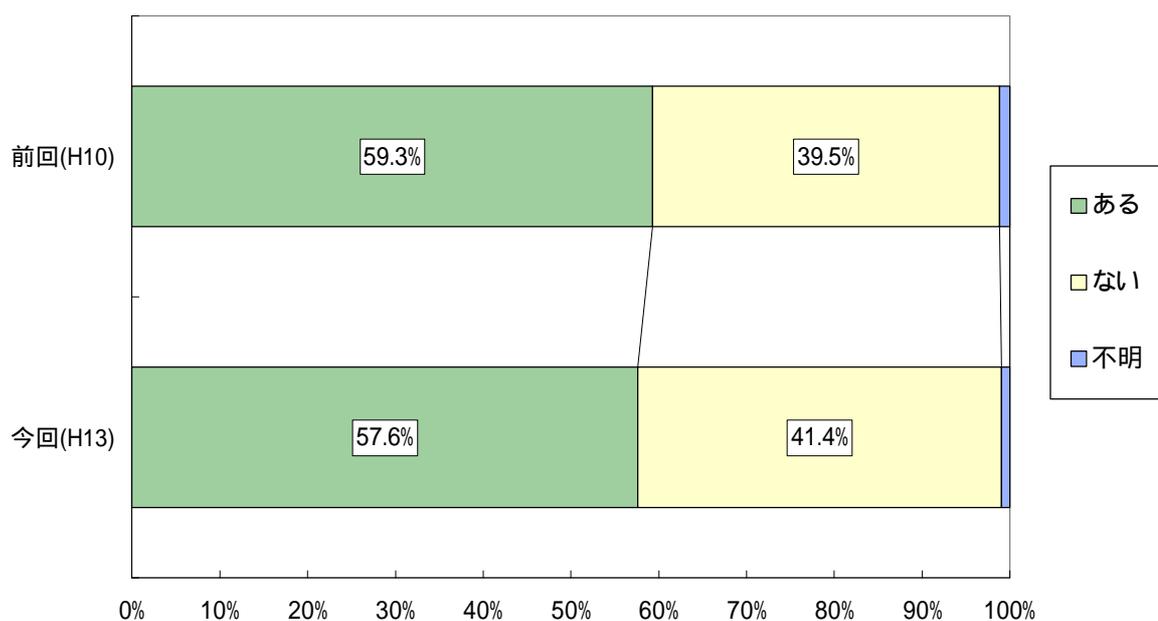
防犯関連について見ると、ピッキング対策をとっている割合、エレベーターに防犯用の窓を設置している割合は、共に9割を超え、ほぼ全件で実施。

ホームセキュリティシステムについては、5割強が導入（57.6%）。

防犯対策



ホームセキュリティシステムの有無



8 環境への配慮及びペットとの同居

内装材にノンホルムアルデヒド系の材料を採用している割合は、9割に増加（91.0%）。平成10年度調査では、82.6%。

ペットとの同居を可能としている割合は、半数以上であった（61.8%）。

